

1 日時 令和6年5月24日(金) 13:30~16:00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順、敬称略)13人出席/13人全体

馬居委員、狩野委員、塩野委員、鈴木委員、竹内委員、橋本委員、濱田委員、  
原田委員、堀住委員、安井委員、山本委員、横澤委員、横山委員

(2) 上下水道局職員

大石公営企業管理者、渡辺上下水道局長、

花村局次長兼経営管理部長、望月水道部長、大石下水道部長、

川口上下水道総務課長、小林参与兼上下水道経営課長、宮崎上下水道経理課長、秋山参与兼お客様  
サービス課長、

石野参与兼水道計画課長、稲葉水道建設・維持課長、藤田参与兼水道施設課長、浅井水質管理課長、  
瀧戸水道事務所長、新庄水道維持担当課長、角谷清水水道施設担当課長、山本葵北水道施設担当課  
長、

石上下水道計画課長、松田下水道建設課長、森田参与兼下水道維持課長、戸塚下水道施設課長、  
杉山下水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、山上清水浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

小林上下水道経営企画課長 外5名

4 傍聴者 なし

5 内容

(1) 開会・オリエンテーション

① 静岡市公営企業管理者 挨拶

【大石公営企業管理者】

- ・昨年度は難波市政となり、これまでの市政と大きくやり方が変わった。
  - ・市長は安心感のある温かい社会を作りたいが、本市の人口減少に強い危機感を持っている。上下水道は暮らしの安心感として含まれている。
  - ・全体で14のプロジェクトチームが発足し、上下水道局にもプロジェクトチームができた。
  - ・能登半島地震や国交省での上下水道一体化などの動きがあり、これらの観点も踏まえ、合理的な投資財政計画を作っていくたい。
- 今年度はこの進捗状況についても経営協議会で報告させていただくため、委員の皆様には忌憚のない意見をお願いしたい。

② 委嘱状交付・委員紹介

事務局が資料1名簿順に紹介(紹介順に委員が自席で起立)

③ 上下水道局職員紹介

資料2（令和5年度 静岡市上下水道事業経営協議会 職員名簿）のとおり  
公営企業管理者 退出

(2) 議事

① 協議会の令和6年度スケジュールについて

事務局から説明

資料3 令和6年度 静岡市上下水道事業経営協議会 開催スケジュール

【鈴木会長】

ただいまの説明に意見等ありますでしょうか。

質疑・応答

なし

② 第5次中期経営計画の評価方法について

事務局から説明

資料4：第5次中期経営計画の評価方法について

【鈴木会長】

今まで協議会での評価数が相当数あったため、効率化されるのは良い機会かと思う。

委員の皆様からの意見は従前どおり全事務事業が対象であるのでカバーできている。

ただいまの説明に意見等ありますでしょうか。

実際に8月にやってみて問題点があればそこで指摘していただければと思う。

質疑・応答

なし

③ 令和6年度 予算・事業説明

上下水道経理課長から説明

資料5：令和6年度予算・事業説明

質疑応答

【狩野委員】

企業債の借入金利は何%か。

(上下水道経理課長)

借入先にもよるが概ね1.2%である。

【狩野委員】

資料2ページに令和4年度の実績とあり、31.3kmに対し、19.3kmだと約61%となるが、更新率0.74%との関係はなにか。

(水道建設・維持課長)

更新率は全体に対する当年度実施距離の割合である。全体は約2,700kmである。

【狩野委員】

では、施設の減災・老朽化対策のR6目標の52.4%はどのような数値か。

(水道施設課長)

市内全体の配水池容量のうち、耐震化された分の配水池容量の割合を示している。

【鈴木会長】

いずれも、それでは資料上に分母の記載がないためわかりづらいため、今後改善したほうがいい。更新率については、全体延長が記載していれば、すべて終わるのに100年以上かかってしまう。そのような危機感が伝わってこない。

【狩野委員】

3ページ右下に液状化リスクの表があるが、これは何を意味しているのか。どうイメージすればいいのか。

(水道部長) ※水道計画課長の説明含む

縦軸は今埋まっている管に耐震性があるかないか、老朽化度は古い管か新しい管かで4つの区分にわけており、それに対し、液状化した場合にどうなるのかのリスクを高い低いで横軸で示しており、このようなイメージでこれから判定をしていく。

【狩野委員】

4ページの括弧書きの金額は前年度の金額でよいか。

(水道計画課長)

お見込のとおりである。

【橋本委員】

9ページの浸水センサのシステム構築はこれからか。

(下水道計画課長)

浸水センサは今年度発注して設置する。サイトは市危機管理課で構築するため、そちらに情報を送る予定。

【橋本委員】

リアルタイムとあるが、携帯にくるのか。

(下水道計画課長)

その部分も市危機管理課と連携して進めていく。

【濱田委員】

実際浸水は数分でどんどんあがっていくと考えられるが、この資料は浸水状況をリアルタイムで知らせるので、それで逃げまじょうととみえる。市民が自発的に事前に逃げるための予防的な発信も市危機管理課と調整してほしい。

(下水道計画課長)

この意見を承って調整を進めていく。

【竹内委員】

昨今の物価高騰、金利高騰などこれから起こりうる変化を予算や収支計画にどれくらい反映しているのか。また、AIなど新たな技術をどのような接点・受け皿で進めていくのか。

(上下水道経理課長)

労務単価や動力費をはじめ上昇が見込まれるものは令和6年度予算に反映している。

新技術の導入はプロジェクトチームが外部からアドバイスを受けながら進めていく予定である。

**【狩野委員】**

1 ページの収支不足は企業内部の補てん財源を充当するとあるが、具体的にはどのような財源なのか。下水道事業も同様か。

(上下水道経理課長)

収益的収支の減価償却費などの非現金支出や純利益が資本的収支の財源として回っていく。下水道事業も同じ。

**【鈴木会長】**

水道の繰越利益剰余金（補てん財源）は実際どれくらいあるのか。

(上下水道経理課長)

令和5年度決算速報値で75億6千万円余である。

**【鈴木会長】**

補てん財源は充分にあると思えるが、なぜ企業債を増やすのか。政策判断として、企業債を増やすことは直近の料金改定を回避できるため簡単だが、これは将来世代への借金の付け回しである。企業債に頼らない方法は知恵を絞らなければならない。同じ借りるにしてもたとえば静岡市の上下水道局が主体となり、市民から直接資金調達を求めることで金利負担を減らすことも可能ではないだろうか。資金調達は多様化している。企業債残高が令和16年度には減少に転じるというが、それでも10年は増え続ける。企業債ありきの予算編成は検討してもらいたい。同じ企業経営者として、竹内委員はこれについてどうお考えか。

**【竹内委員】**

資金調達として市民に対する水道事業債の発行は、借入金利の引き下げ効果だけではなく、水道事業の周知にもつながるため、一つの手法として検討することについては同意する。

(上下水道経理課長)

今後の検討課題として認識している。

**④ 上下水道経営管理チームの設置について**

上下水道経営企画課長から説明

資料6：上下水道経営管理チームの設置について

※今年度当初から議論する予定であった水道料金の見直しはこのプロジェクトチームによる投資財政計画の見直しの進捗状況を踏まえ、次回以降に方針について説明させていただく旨説明。

質疑応答

**【狩野委員】**

水道事業が国土交通省所管になるとあるが、これは上下水道か、水道事業だけか。

(上下水道経営企画課長)

下水道は以前から国交省所管であり、令和6年度から水道事業が厚労省から国交省へ移管されたことにより、今年度から上下水道ともに国交省所管となった。

**【鈴木会長】**

プロジェクトチームは積極的に進めていただき、経営協議会への報告もお願いしたい。

**⑤ 令和6年能登半島地震 災害支援状況について**

上下水道経営企画課長から説明

資料7：令和6年能登半島地震 災害支援状況について

質疑応答

【狩野委員】

上下の支援に要した費用の財源は国が全額負担するという理解でよいか。

(上下水道経営企画課長)

直接か間接かで上下でお金の流れがちがうが、全部ではないものの基本的には国が負担することになる。

【鈴木会長】

お金の問題もあるが、だれをどう派遣するかなど人の問題もある。大変だとは思いますが、これからの中長期派遣についても引き続きお願いしたい。

⑥ 清水区における PFAS の状況について ※委員要望により急遽説明

水質管理課長から市環境局 HP 掲載資料の内容を口頭説明

- ・静岡市水道水の取水源における PFAS 濃度は、いずれの取水源においても国が定める基準値以下となっている。

質疑応答

【鈴木会長】

本件の原因と対策はどうか。

(水質管理課長)

市の見解としては、清水区三保にある化学メーカーからの漏えいとしている。

現在、本市水道水においては PFAS は検出されていないが、万が一検出された場合は直ちに取水停止する。なお、清水区三保の水道水は興津川から取水したものであり、水道水を使っていた限り影響はない。

【横澤委員】

以前の経営協議会で井戸水を静岡市の水道事業が使用すると聞いたため気になった。

(水質管理課長)

三保地区の井戸水の検査は環境サイドが実施している。水道水の水源は三保地区にはない。なお、三保地区の井戸水は飲用しないよう広報されている。

(原田委員)

三保地区の食品工場などは地下水を使っているかもしれないがどうか。

(水質管理課長)

環境サイド主体で対策について協議を進めている。

<連絡事項(事務局)>

- ・資料 8 は、令和 6 年 6 月 5 日(水)までに事務局宛て提出いただきたい。  
(いずれの資料も記入は任意、提出は必須)

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

(署名) 鈴木 学